

第 2 期南房総・館山地域公共交通計画

(骨子)

令和 7 年 11 月

南房総・館山地域公共交通活性化協議会

1. 本計画の概要

（1）背景・目的

令和3年8月に策定した「南房総・館山地域公共交通計画」は令和7年度をもって計画期間が終了することから、現計画の計画目標に基づく評価指標について最終評価・検証を行った上で、公共交通活性化及び再生に関する法律の改正に対応すべく、計画をアップデートし、地域内全域の公共交通の効果的かつ効率的な運用についての基本方針を反映した「第2期南房総・館山地域公共交通計画（以下「本計画」という。）」を新たに策定した。

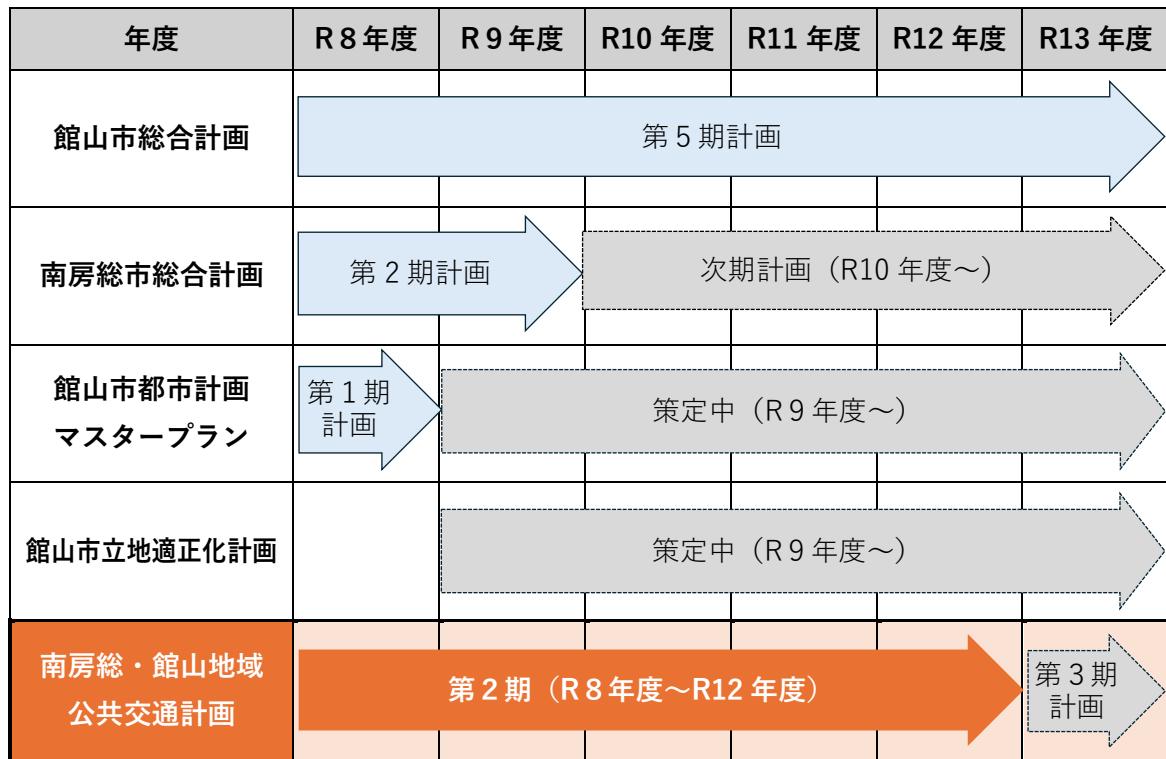
（2）対象区域

対象区域は千葉県南房総市および館山市全域とする。



(3) 計画期間

令和 8(2026)年度から令和 12(2030)年度までの 5 年間とし、おおむね 5 年ごとに更新を図る。



2. 基本理念と基本方針

（1）基本理念

地域の現状や課題の整理を踏まえ、本計画の基本理念を以下の通り設定する。

地域住民の外出行動を促進し、地区ごとの特性に応じた活性化を図る

公共交通ネットワークの実現

（2）基本方針

本地域が目指すべき姿に向けて、今後5年間の基本方針を5つ設定する。

**方針
1**

公共交通の相互連携及び機能分担による地区ごとの特性に応じた最適な交通環境の提供

**方針
2**

将来にわたり持続可能で“コンパクト・プラス・ネットワーク”を支える交通軸の形成

**方針
3**

新たな公共交通サービスの横展開による公共交通不便地区への対応

**方針
4**

観光や商業等、まちづくりにおける他分野との連携

**方針
5**

地域住民にも来訪者にもわかりやすい一元的な運行情報の発信による利用促進

本地域に存在する地域公共交通の特性やニーズを整理し、それぞれの役割を明確にしたうえで、効果的な機能分担をするとともに、各公共交通機関の相互連携による利便性の向上を目指す。

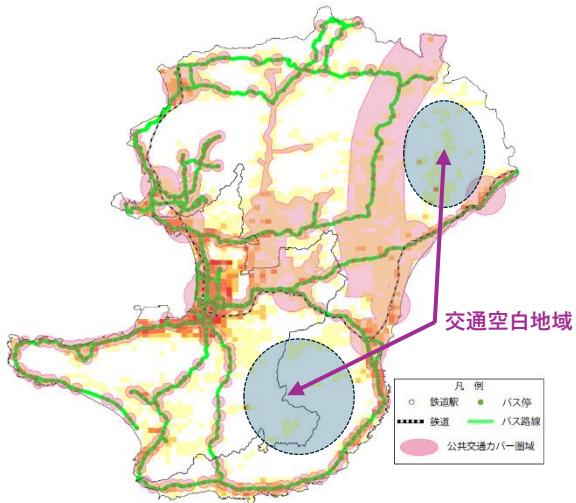
そのため、鉄道駅や道の駅、“渚の駅”たてやま等の主要な交通結節点における機能整備や各地区の特性に応じた最適な交通環境の提供を推進する。

【地域の現状】

本地域は鉄道やバス交通、一般タクシー、デマンド交通等の公共交通が存在している。特にバス交通は館山駅を中心に放射状に延びており、市域を跨いで人口集中地区をカバーする路線体系となっている。

しかし、和田地区や豊房神余地区等の内陸部において交通空白地域が存在しており、既存路線でも館山鴨川線や丸線など、土日の運行本数が4本／日と非常に少ない交通不便地域も存在している状況である。

▼現行の公共交通ネットワーク

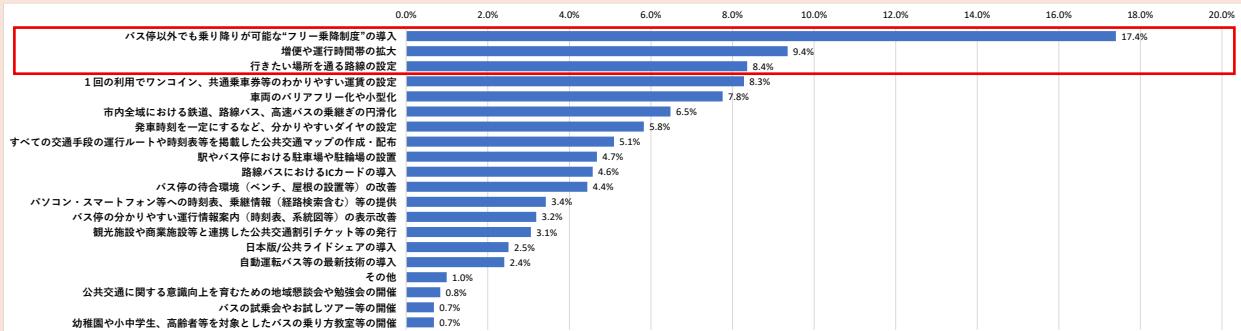


【課題の整理】

上記現状を踏まえ、住民アンケートにおいても、公共交通の利用促進策について「行きたい場所を通る路線の設定」や「増便や運行時間帯の拡大」といった回答が多いことから、現状の公共交通でカバーできていないエリア（交通空白地帯）や交通不便地域に対する改善を望む声が一定数存在しており、地区ごとの特性に応じた最適な交通環境を整備する必要がある。

また、「市内全域における鉄道、路線バス、高速バスの乗り継ぎの円滑化」や「1回の利用でワンコイン、共通乗車券等のわかりやすい運賃の設定」等の回答が多いことから、交通機関同士の相互連携や機能分担に注力する必要があるといえる。

▼住民アンケート調査【公共交通の利用を促進するにはどのような取り組みが必要か】について



将来にわたり持続可能で“コンパクト・プラス・ネットワーク”を支える交通軸の形成

地域公共交通を利用する市民や来訪者の誰もが、不便を感じずスムーズにアクセスでき、安心・安全に利用できるネットワークの構築を目指すとともに、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方のもと、将来にわたり持続可能な交通軸を構築する。

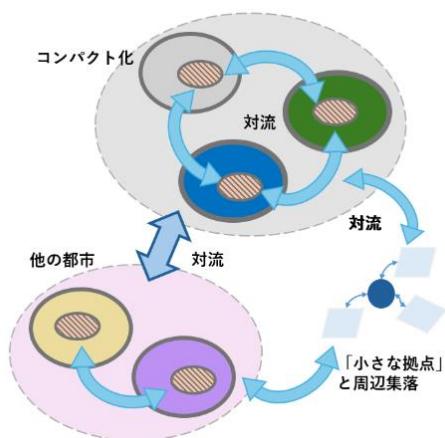
そのため、2市の上位関連計画との整合を図りつつ、真に必要な軸を位置付け、鉄道や高速バス等の広域交通の利便性向上や、担い手不足や利用者減少といったバス・タクシーの実態を踏まえた地域内交通の維持・利用促進等の取組みを推進する。

【地域の現状】

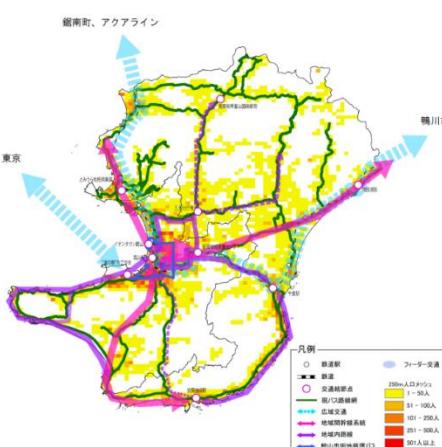
上位関連計画である両市の総合計画では、公共交通機関及び交通結節点の利便性向上による持続可能な交通ネットワークの機能向上が求められており、以下のような地域公共交通の位置付けがなされている。

計画名	地域公共交通に関する事項
館山市総合計画 (策定中)	暮らしの利便性を高める地域公共交通網の構築 <ul style="list-style-type: none"> 市民の移動ニーズと市内の回遊性を高める地域公共交通網の見直しやバス路線の再編、新たなサービス形態への転換 地域の関係者との連携と協働を通じて、地域公共交通の利便性・持続可能性を高める
南房総市総合計画	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な地域公共交通の確立 高速バスの利便性向上 鉄道の機能維持 公共交通拠点の機能強化

▼コンパクト・プラス・ネットワークの概念図



▼第1期計画の骨格形成軸



【課題の整理】

上記現状を踏まえ、交通事業者の乗務員の高齢化や人手不足が進んでいくなか、持続可能な公共交通を維持・強化するため、地域拠点や移動ニーズも鑑みた、コンパクト・プラス・ネットワークに資する幹線軸及び支線軸の形成が必要である。

新たな公共交通サービスの横展開による公共交通不便地区への対応

本地域内には、鉄道駅やバス停留所から離れた交通空白地域が存在しているとともに、1日当たりの運行便数が少ない交通不便地域が存在していることから、交通空白・不便地域にふさわしい補完交通の導入について、引き続き事業を遂行していく。

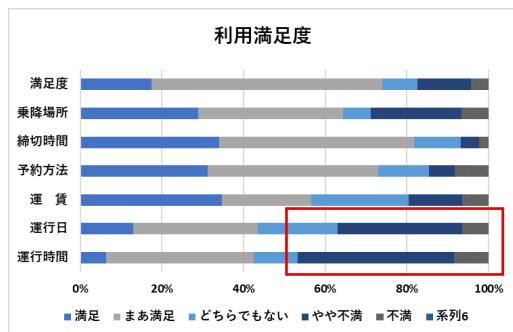
そのため、これまでの取組みを進めてきたデマンド交通やライドシェア等の横展開を図るとともに、地域主体による新たな交通手段について検討を進めていく。

【地域の現状】

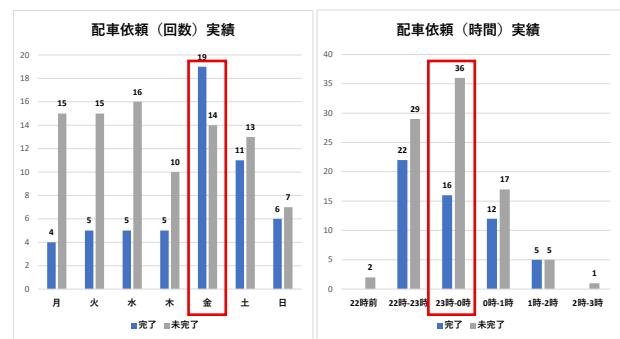
本地域では、デマンド交通やライドシェアの取組みを推進してきており、R7年度から取り組んでいるライドシェアは、一定の需要が存在しているが、配車依頼件数を曜日別に見ると金曜日、時間帯別に見ると23時～0時が多く、人員含め精査が必要である。

また、デマンド交通においても、運行日や運行時間への懸念が利用者から生じている状況にある。

▼デマンド交通の利用満足度



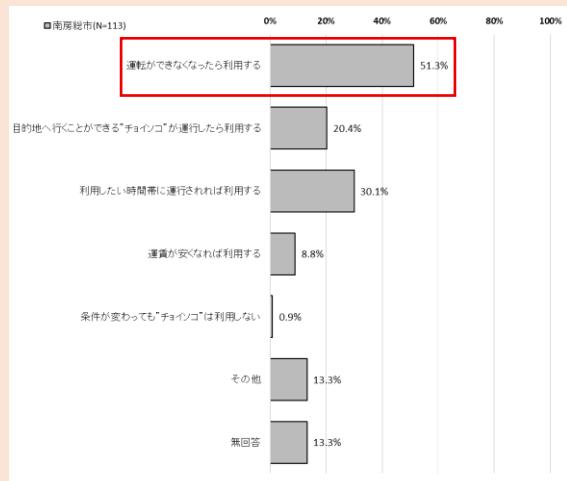
▼ライドシェアの実績



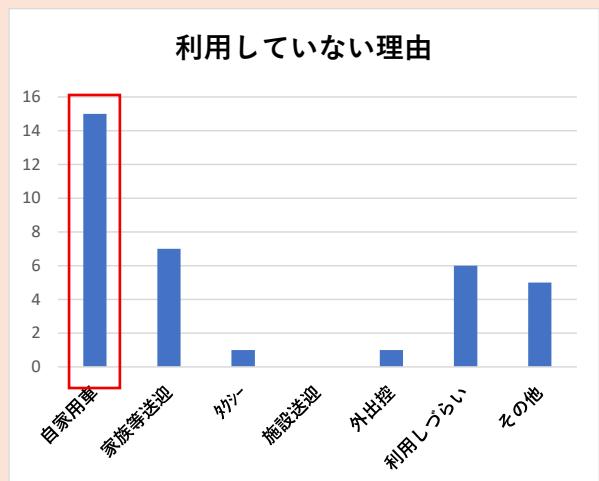
【課題の整理】

上記現状を踏まえ、今後、高齢化の進展に伴い、外出時に移動手段がなく困る高齢者が増えることが予想され、過去のアンケート結果においても、自家用車を運転できなくなった際に需要が増えることが示唆されていることから、将来を見据えた他地域への横展開が必要である。

▼デマンド交通の利用を考えるための条件



▼デマンド交通を利用していない理由



観光や商業等、まちづくりにおける他分野との連携

運転手不足や物価高騰などの社会問題となっている交通事業者を取り巻く環境を踏まえると、公共交通のみで全域を網羅することは困難であることから、地域・交通事業者・行政による共創が必要となるとともに、観光や商業、福祉等の他分野と連携し、一体となったまちづくりを推進していく。

そのため、地域内に存在する送迎サービス等の地域輸送資源活用や、利用促進に繋がる取り組み等を検討・実行し、公共交通の利用促進および地域の活性化に繋げていく。

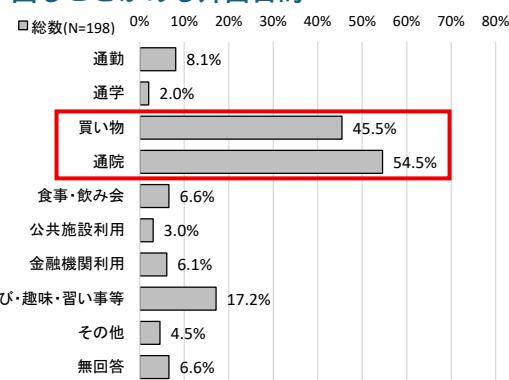
【地域の現状】

住民アンケートにおいて「外出時に困ることがある」と回答した地域住民のうち、どのような目的で外出する際に困ることが多いかを回答した結果を見ると、「買い物」「通院」が突出して多くなっている。

また、観光客年間入込客数の推移を見ると令和2年以降増加傾向に転じている。

これらのことから、観光や商業、福祉等まちづくりにおける他分野との連携が、公共交通の利用促進に大きく関わっているといえる。

▼困ることがある外出目的



▼観光入込客数の推移



【課題の整理】

上記現状を踏まえ、関係事業者からも公共交通機関との連携が求められており、交通分野だけで解決を目指すのではなく、他分野と連携し、役割分担を明確に位置づけたネットワークの構築により、地域活性化の好循環を生み出すことが必要である。

▼関係事業者アンケートより

- 宿泊者から日中の公共交通の便が悪く、観光ができないという意見をいただいている。地域の高齢者と観光客は無料（安価）で利用できる観光巡回バスが導入されれば嬉しい。（宿泊施設）
- 市営バス富山線を利用して受診された患者様に対して復路に係る乗車運賃を助成するチケットを交付しているが、バス停まで行くことができない方多くいるため、乗り場を特定せずに玄関から病院まで移動可能な手段が拡充されると助かる。（医療施設）
- 店舗ではできないが、市や施設等でバスや車などで送迎してくれると便利。（商業施設）

地域内の公共交通について、情報を一元的に提供する媒体がなく、住民や来訪者に対し、十分な情報が行き渡っていない状況であることから、わかりやすく親切な情報の提供を推進する。

そのため、公共交通マップの更新やデジタルマップの提供等、情報提供環境の充実に向けて取り組んでいく。

【地域の現状】

現状の一元的な媒体として、南房総市公共交通マップや、市HP等で情報をまとめている。アナログ媒体に関しては、路線の変更などがあった場合、随時更新が出来ず、最新情報の公開が難しい。

市HP等での運行情報等の周知も、交通事業者ごとに別のHPにアクセスする必要がある等不便さを抱えており、効果的な情報発信を行えていない。

▼南房総市公共交通マップ（2019年10月更新）

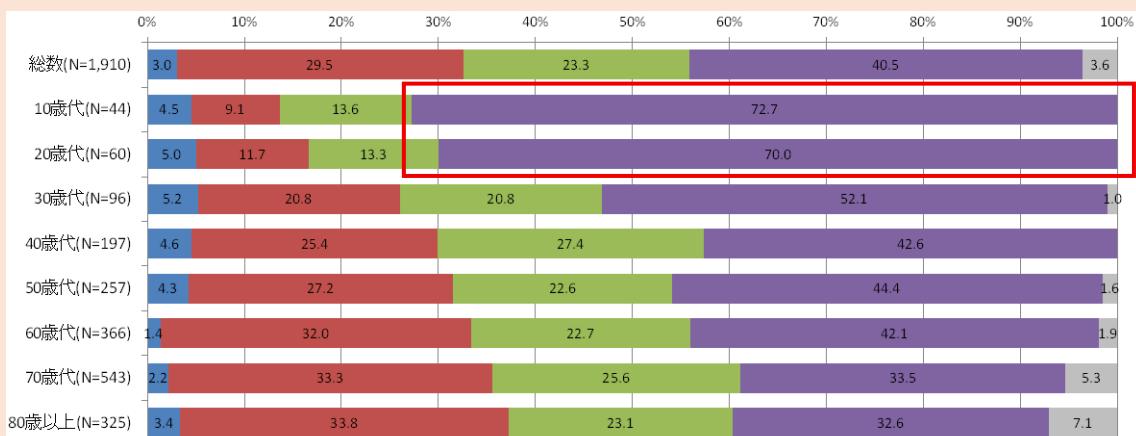


【課題の整理】

上記現状を踏まえ、新たな取組であるデマンド交通についても住民にうまく情報が行き届いていない状況であり、特に若年層の認知度が低いことからデジタルを活用した情報発信を積極的に行っていく必要がある。

そのため、バス交通の情報を最新とともに、鉄道や高速バスの情報や新たな取組についても一元的に整理・確認ができる媒体が必要である。

▼デマンド交通の認知度について

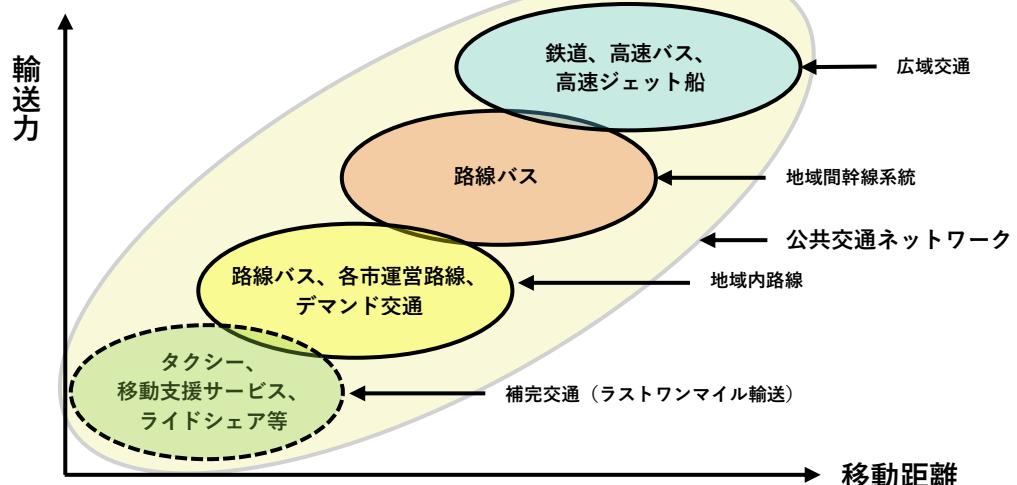


(3) 公共交通の機能分担

公共交通ネットワークの方向性は、既存の公共交通網を有効に活用し、広域交通（鉄道・高速バス）、館山駅から放射状に延びる地域間幹線系統（路線バス）、地域内路線（路線バス、各市運営路線、デマンド交通）及び補完交通（ラストワンマイル輸送）の4段階に機能分担を図る。交通結節点としては、鉄道駅、バスターミナルとしての安房白浜駅、医療機関、公共施設、大型商業施設等を位置づける。また、既存公共交通ネットワークを基本としながら、これらを補完する新たな交通システムを導入し、公共交通機関相互の接続・連携により、地域住民の生活交通、更に来訪者の二次交通としても機能させ、利便性向上と効率的な運行を目指す。

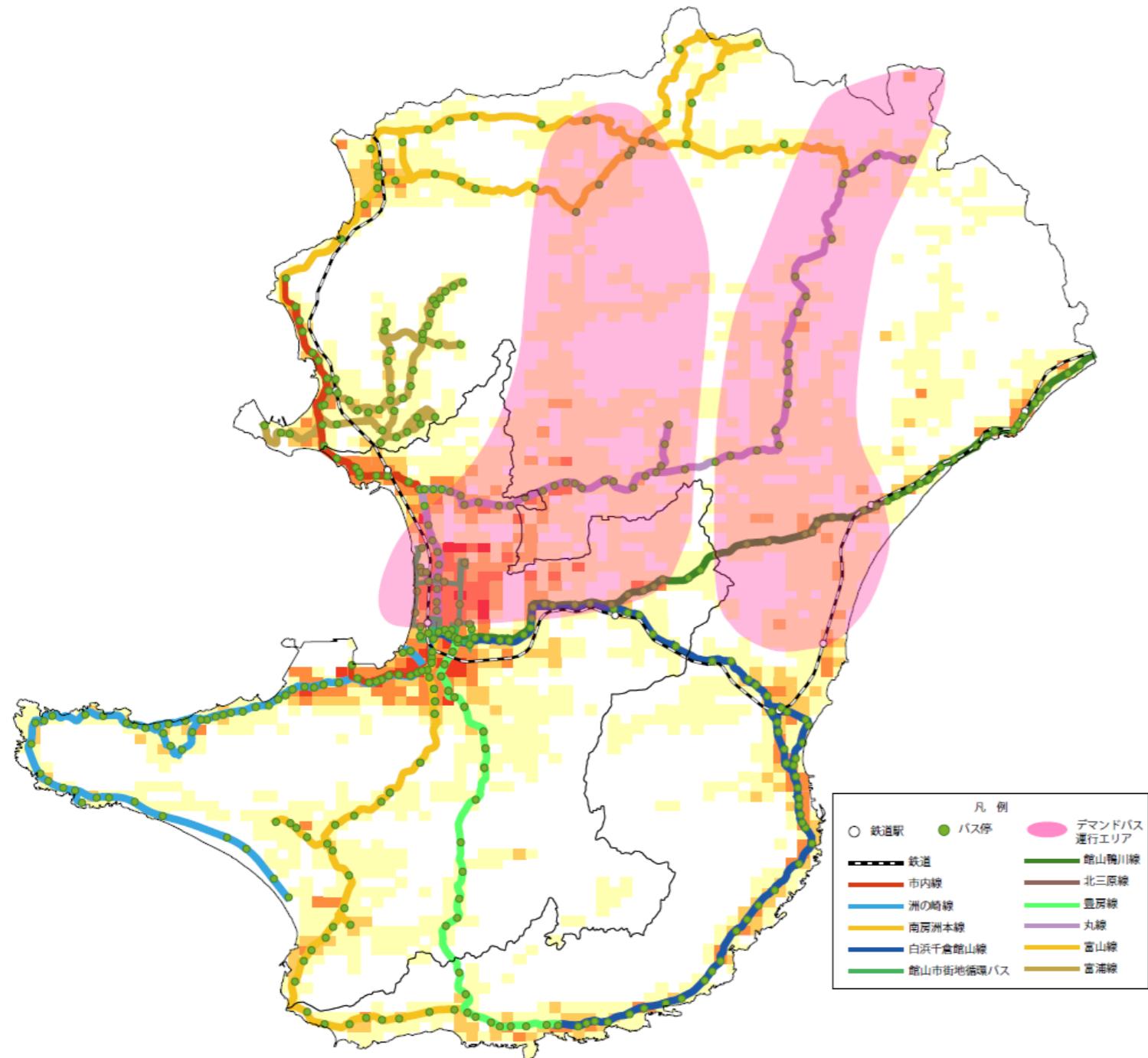
機能分類	役割分担	対応公共交通システム
広域交通	○木更津・千葉方面、アクアラインを経由して東京へ連絡し、地域の骨格形成軸となる路線 ○通勤・通学、買物、観光など多様な目的に対応	JR 内房線、高速バス、高速ジェット船
地域間幹線系統	○地域内の骨格放射路線 ○通勤・通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応	市内線、南房州本線、館山鴨川線
地域内路線	○市内の生活路線及び観光路線 ○広域交通に接続、地域間幹線系統を補完 ○市内の地区間・拠点間を連絡し、分散する市街地の連携強化・一体化 ○デマンド交通によって廃止された地域内路線を補完	白浜千倉館山線、豊房線、洲の崎線、丸線、富浦線、富山線、館山市街地循環バス、デマンド交通
補完交通 (ラストワンマイル輸送)	○上記交通システムを補完し、主に高齢者・交通弱者のために少量個別輸送を担う移動手段	タクシー、移動支援サービス、福祉タクシー、地縁交通(地域の共助)、ライドシェア、観光交通等
交通結節点	○上記交通システムの連携拠点で、待合空間の整備・乗継ぎ情報の提供等の機能強化を図るべき拠点	館山駅、千倉駅、安房白浜駅、道の駅、渚の駅、医療機関、商業施設等

■輸送力と移動距離との関係による地域内各公共交通の位置付け

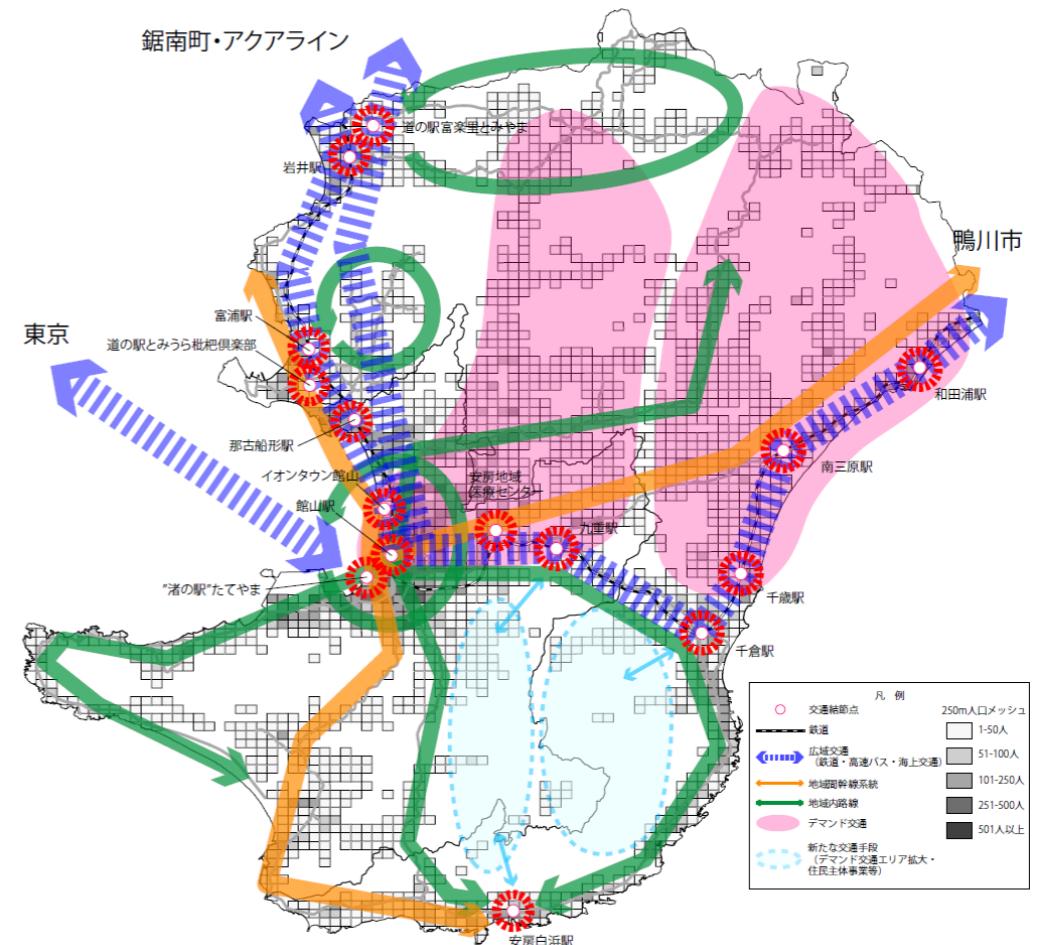


（4）将来ネットワーク

■現況ネットワーク図



■将来ネットワーク図



位置づけ	地域公共交通システム	確保・維持策
広域交通	JR 内房線 高速バス 高速ジェット船	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保。
地域間幹線系統	路線バス（市内線、南房州本線、館山鴨川線）	地域公共交通確保維持改善事業（幹線補助）や県市町村補助を活用し持続可能な運行を目指す。
地域内交通	路線バス（白浜千倉館山線、豊房線、丸線、富浦線、富山線、洲の崎線）	交通事業者と連携した取組により、一定以上の需要を確保。
	路線バス（館山市街地循環バス、デマンド交通）	地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助）を活用し持続可能な運行を目指す。
補完交通 (ラストワンマイル輸送)	タクシー、移動支援サービス、福祉タクシー、地縁交通(地域の共助)、ライドシェア、観光交通等	地域住民、交通事業者と協議の上、利用ニーズに応じた運行水準を確保。

3. 計画目標と評価指標

(1) 計画目標

5つの基本方針を実現するため、達成すべき計画の目標を5つ設定する。

目標
1

利用する人にわかりやすく、利便性の高い公共交通ネットワークの確立

目標
2

交通空白・不便地域の縮小による、外出行動の促進

目標
3

観光や商業等のまちづくりとの連携による、圏域の活性化及び地域路線の維持

目標
4

住民、交通事業者、行政との協働による持続可能なまちづくり

目標
5

より公共交通に親しんでもらい、利用してもらうための取組展開

(2) 評価指標と目標値

計画の目標に応じた評価指標を以下の通り設定し、目標値を定めた。

■評価指標と目標値（案）

評価指標	指標の定義	現況値 (2024)	目標値 (2029)
公共交通利用回数 ※1	・圏域内バス路線の住民1人当たり年間利用回数	5.0回	5.0回
	・地域間幹線系統バス路線の住民1人当たり年間利用回数	2.7回	3.2回
	・鉄道駅の住民1人当たり年間利用回数(有人駅)	11.7回	11.7回
	・高速バスの住民1人当たり年間利用回数	10.4回	18.0回
財政負担額 ※2	・地域内バス路線における住民1人当たり年間負担額	2,158.7円	2,158.7円
収支率 ※3	・地域間幹線系統	52.7%	55%以上
	・地域内路線	26.4%	30%以上
公共交通サービス 圏域 ※4	・地域公共交通の人口カバー率	74.8%	80%
一元的な情報発信	・地域に存在している公共交通の情報を一元的に整理・可視化した情報発信の件数	1件	2件

※地域間幹線系統においては、路線別の指標評価も行うこととする

※1 各公共交通事業者の年間利用者数データから集計 ※2 南房総市・館山市決算データから集計

※3 南房総市・館山市決算データから集計

※4 地域内の鉄道駅歩圏（各駅から半径1km以内）、バス停歩圏（各バス停から半径300m以内）、及びデマンド交通の運行エリアの合計

4. 実施事業及び実施主体

(1) 目標達成に向けた実施事業の関連表

計画目標	事業	具体内容
«目標1» 利用する人にわかりやすく、利便性の高い公共交通ネットワークの確立	①広域交通の利便性向上 ②地域間幹線系統路線の利便性向上 ③地域内路線の利便性向上 ④交通結節点の機能強化	官民連携による利用促進策の展開（鉄道・高速バス・季節運航ジェット船） 地域間幹線系統路線の維持・強化 地域内路線の再編と有効活用 地域内フィーダー系統路線の維持・強化 駅舎等の利活用 待合環境の充実（ユニバーサルデザイン・にぎわいの創出等）
«目標2» 交通空白・不便地域の縮小による、外出行動の促進	⑤交通空白・不便地域の縮小	一般タクシー事業の維持・利用促進 既存及び新たな交通モードの横展開 福祉分野の移動支援事業との連携 多様な地域輸送資源の活用によるファースト・ラストワンマイル対策
«目標3» 観光や商業等のまちづくりとの連携による、圏域の活性化及び地域路線の維持	⑥観光産業と連動した公共交通利用者の増進 ⑦商業等のまちづくりと連携した利用促進	地域交通の観光周遊利用 レンタカーやシェアサイクル等、観光二次交通の整備・充実 集客施設と連携したキャンペーン等の取組検討（電子マネー、企画切符との連携） 民間活力の活用（企業とのタイアップ、ネーミングライツ等）
«目標4» 住民、交通事業者、行政との協働による持続可能なまちづくり	⑧運転手不足への対応	地域住民主体による新たな移動手段の検討 運転手募集に係る連携・支援
«目標5» より公共交通に親しんでもらい、利用してもらうための取組展開	⑨わかりやすい情報案内 ⑩モビリティマネジメントの実施	運行情報の一元化 住民意識の醸成に資する事業展開

(2) 実施事業

事業 1	広域交通の利便性向上					
実施 概要	■具体的な取組					
実施 主体	館山市・南房総市、交通事業者、地元事業者					
実施 工程	具体的な取組	R8	R9	R10	R11	R12
	官民連携による利用促進策の展開					

実施
概要

■具体的な取組

★地域間幹線系統の維持・強化

- ・圏域を放射状にネットワークする地域間幹線系統については、利用実態や市民移動ニーズ等を考慮し、見直し・維持を図る。

■路線別の実施事業内容

①市内線	○他路線との重複区間の解消、館山バイパス沿道施設アクセス向上を考慮するとともに、実証運行を行った市街地循環バス導入の効果を見極めながら運行ルートの見直しを図る。
②南房州本線	○引き続き路線を維持・確保する。また、路線情報（ダイヤ・運賃・割引等）についての効果的な発信やより使いやすいダイヤ・運賃体系などについて取り組み、增收・増客を図る。
③館山鴨川線	

- ・路線バス市内線、南房州本線、館山鴨川線については、地域間交通として市域をまたいだ連絡及び市内幹線系統となる交通手段であり、持続的な維持が必要であるため、2市の補助金のみならず、国より地域間幹線系統確保維持国庫補助金の交付を受け運行しており、引き続き補助金を活用し、安定的な確保維持を目指す。

■ネットワークイメージ



該当路線の図面を作成中

実施
主体

館山市・南房総市、バス事業者

実施
工程

地域間幹線系統の維持・強化

R8

R9

R10

R11

R12



■地域間幹線系統に係る概要整理

系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行態様	実施主体	補助事業の活用
市内線	館山航空隊	館山駅	小浜	4条乗合	路線定期運行	日東交通	幹線補助
南房州本線	館山駅	安房神戸	安房白浜			ジェイアールバス関東	
館山鴨川線	館山駅	南三原駅	亀田病院			日東交通	

実施
概要

■具体的な取組

★地域内路線の再編と有効活用

- ・豊房線については、利用実態や市民移動ニーズ等を考慮し、ラストワンマイルの取組等による再編を図る。
- ・その他の路線については、市民の移動と近隣自治体からの流入及び来訪者の重要な交通手段として、利用ニーズに応じた見直しを検討し、利用促進策を講じながら、路線を維持していく。

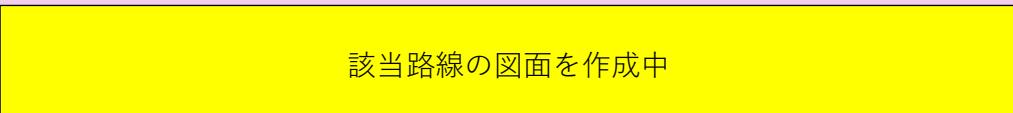
■路線別の実施事業内容

豊房線	<ul style="list-style-type: none"> ○主な利用者である高齢者がより利用しやすくするため、車両を小型化し、集落内にこまめに乗り入れる形態への転換を地域住民とともに検討し、新たな交通システムへ移行させる。 ・住民の利用意向の把握 ・住民と協働し、見直し案を策定 ・車両の小型化 ・集落内へのこまめな乗入
-----	---

★地域内フィーダー系統路線の維持・強化

- ・館山市街地循環バス及びデマンド交通については、自家用自動車を運転することができない高齢者等を中心とした方の生活交通を維持することとしての交通手段を確保する必要があり、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）を引き続き活用し、安定的な確保維持を目指す。

■ネットワークイメージ



該当路線の図面を作成中

実施
主体

館山市・南房総市、交通事業者

実施
工程

具体的な取組

R8

R9

R10

R11

R12

地域内路線の再編と有効活用

地域内フィーダー系統路線の維持・強化

■地域内フィーダー交通（補助対象路線）に係る概要整理

系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行態様	実施主体	補助事業の活用
館山市街地循環バス	館山駅東口	カインズ館山店	館山駅東口	4条乗合	路線定期運行	館山市（運行は日東交通）	フィーダー補助
チョイソコ南房総・館山	-	南房総市富山・三芳地区、館山市館野・九重地区	-		区域運行	南房総市、館山市（運行は鏡浦自動車）	

実施
概要

■具体的な取組

★駅舎等の利活用

- ・地域の賑わいの場、交通結節点として機能させるべく、鉄道事業者や地域住民等と連携し、地域の拠点となるだけでなく、行ってみたくなるような場づくり等、利活用の方策を検討する。

■那古船形駅



■和田浦駅



■館山駅前広場



■安房白浜駅



■イオンタウン館山

実施
主体

館山市・南房総市、交通事業者、関連事業者

実施
工程

具体的な取組

駅舎等の利活用

R8

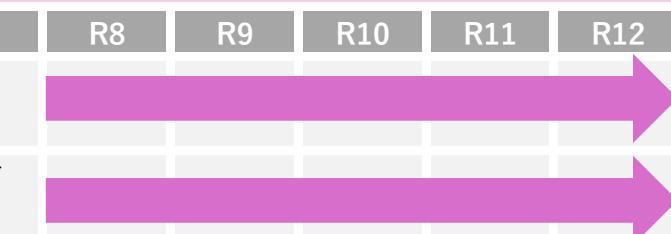
R9

R10

R11

R12

待合空間の充実（ユニバーサルデザイン、にぎわいの創出等）



実施
概要

■具体的な取組

★一般タクシー事業の維持・強化

- ・自宅から目的地までドア・ツー・ドアで移動でき、きめ細かな対応が可能であるというタクシーの利点を活かし、利用促進に向けて、市ホームページや「公共交通マップ」などにより、タクシーサービスの周知を図る。

★既存及び新たな交通モードの横展開

- ・既存のデマンド交通において、実証運行中のエリアについては本格運行への移行を目指すとともに、既存の本格運行中のエリアとの連携を図る。
- ・和田地区や千倉地区等に広がる交通空白地帯については、デマンド交通等の横展開や新たな交通モードを検討する。
- ・かつてデマンド交通の実証運行を行ったものの、利用者数が伸び悩み運行終了となつた豊房神余地区については、住民主体によるコミュニティ交通等、新たな交通モードを検討する。

★福祉分野の移動支援事業との連携

- ・南房総市社会福祉協議会では、公共交通機関の単独での利用が困難な者に対し、ボランティア移送サービス事業を実施している。高齢化の進行等による移動困難者の増加に対応するため、民間タクシーとも連携を図りながら、サービスの見直しを検討する。

★多様な地域輸送資源の活用によるファースト・ラストワンマイル対策

- ・路線バスでカバーできない地区等（交通空白地域において、無料の医療送迎や自家用車有償運送など、あらゆる地域の輸送資源と連携し、近くのバス停や施設までの移動手段を整備することで、ファースト・ラストワンマイル対策を推進する。

■医療送迎バス

実施
主体

館山市・南房総市、交通事業者、地域住民

実施
工程

具体的な取組

R8

R9

R10

R11

R12

一般タクシー事業の維持・強化



既存及び新たな交通モードの横展開



福祉分野の移動支援事業との連携



多様な地域輸送資源の活用によるファースト・ラストワンマイル対策



実施
概要

■具体的な取組

★地域交通の観光周遊利用

- ・グリーンスローモビリティや自転車など、様々なモードを活用し、地域内をストレスなく楽しく巡れるような観光二次交通の整備を行い、スムーズな移動を確保する。
- ・エリア内での回遊性向上・移動手段の確保を目的とし、地域内9つの道の駅等を結ぶ周遊バスの運行を検討する。必要に応じ実証運行を行いながら、自家用車が無くとも地域の魅力を満喫できるような仕組みづくりに取組む。
- ・宿泊施設や観光施設を周遊し、チェックイン・チェックアウトを考慮したダイヤ編成、ラッピング、観光アテンダントの同乗等を検討し、観光客が乗りたくなるような楽しいバスに仕立て、付加価値を高める。

★レンタカーやシェアサイクル等、観光二次交通の整備・充実

- ・エリア内の路線バスや鉄道との接続強化やカーシェア・シェアサイクル等魅力ある二次交通の導入、二次交通との共通乗車券の販売などを通じ、来訪者が公共交通を利用しやすい環境づくりを行う。
- ・B.B.BASEや「サイクルラックバス」の活用などを通じ、公共交通との連携で誰もが気軽にサイクリングを楽しめる環境整備に取り組む。

■B.B.BASE

実施
主体

館山市・南房総市、交通事業者、観光事業者

実施
工程

具体的な取組

R8

R9

R10

R11

R12

地域交通の観光周遊利用

レンタカーやシェアサイクル等、観光
二次交通の整備・充実

実施
概要

■具体的な取組

★集客施設と連携したキャンペーン等の取組検討

- ・日常的な公共交通利用を促すため、商業施設などと連携し、公共交通の利用に付加価値を付けた割引サービスや企画切符等を検討する（帰りの路線バス切符の進呈、公共交通利用者へのポイントサービスなど）。

★民間活力の活用（企業とのタイアップ、ネーミングライツ等）

- ・持続可能な公共交通の実現に向けては、収支率の向上を目指していく必要があるが、人口減少等の影響により公共交通利用者数は減少傾向となっていることから、運賃外収入による資金調達を検討していく必要がある。そのため、地元企業とのタイアップによる広告収入や協賛金の獲得、ネーミングライツの取組など、民間活力を活用する取組を検討する。
- ・あわせて、今後もさらに高齢化が進行していくことが予想されることから、移動型スーパーとして地域内を運行している「とくし丸」のサービスを企業と連携し、維持拡大に向けた検討を行う。

【事例】いすみ鉄道：鉄道駅及び駅名の命名権募集

- ・鉄道名や各駅名の先頭に表記する形でのネーミングライツを募集中。
- ・いすみ鉄道の新たな安定収入源の確保だけでなく、ネーミングライツとして出稿した企業のイメージアップにもつながる。

実施
主体

館山市・南房総市、関連事業者

実施
工程

具体的な取組

R8

R9

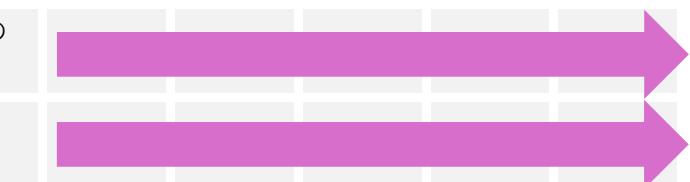
R10

R11

R12

集客施設と連携したキャンペーン等の取組検討

民間活力の活用（企業とのタイアップ、ネーミングライツ等）



運転手不足への対応

実施
概要

■具体的な取組

★地域住民主体による新たな移動手段の検討

- ・持続可能な交通システムの構築として、新たな移動システムでありグリーンスローモビリティ等を活用した地域主体の取組みによる検討も進める。
- ・当面はシニアカーや電動アシスト三輪車等を用いた簡易なシステムとし、将来的には自動運転システムによるスマートモビリティの導入を目指す。
- ・一部の交通空白地域では、新たな移動システム導入だけでなく、タクシー利用による移動手段の確保についても検討する。

■グリーンスローモビリティ



★運転手募集に係る連携・支援

- ・今後もバス・タクシーのサービスを維持・確保していく上で、運転手の確保は必要不可欠である。バス・タクシー事業者では、ホームページなどで運転手の求人を継続的に求めているものの、運転手確保に苦慮している状況のため、市広報誌への求人情報の掲載や、各種イベントへの参加など、運転手の確保策を検討し、実施する。

実施
主体

館山市・南房総市、交通事業者、地域住民

実施
工程

具体的な取組

R8

R9

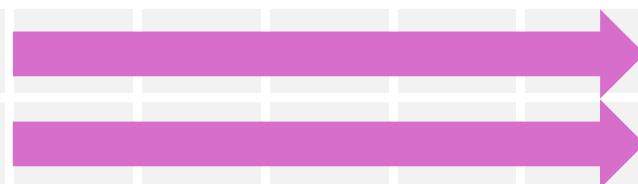
R10

R11

R12

地域住民主体による新たな移動手段の検討

運転手募集に係る連携・支援



実施
概要

■具体的な取組

★運行情報の一元化

- ・公共交通マップの更新に加え、さらなる情報発信強化のための取組として、公共交通機関の時刻表や経路などの地理的情報を広く公開するための標準的なデータ形式で、データは誰もが自由に使用することが可能な GTFS データの導入を検討する。
- ・地域版 MaaS の導入検討として、高齢者や高校生が公共交通を便利に使えるような定額バス等の導入や、観光客や来訪者の利便性向上に向けた環境整備（Web 上での路線情報等整備や観光客向けフリーパスの導入など）を行う。
- ・また、AI 機器を用いた顔認証によるシステム管理・サービス提供の導入について調査・検討を行う。

実施
主体

館山市・南房総市、交通事業者

実施
工程

具体的な取組

運行情報の一元化

R8

R9

R10

R11

R12



実施
概要

■具体的な取組

★住民意識の醸成に資する事業展開

- ・地域の子どもや高校生、今後免許返納を考えている方などを対象に、公共交通に親しんでもらうためのイベント開催など、公共交通を大切にする心を育むことや、公共交通を利用する習慣を身につけることを目指した公共交通の乗り方教室を実施する。

■バスの乗り方教室

(日東交通、ジェイアールバス関東)



【現状の取組状況】南房総・館山公共交通フェスタ

- ・地域公共交通の利用促進を目的に開催。
- ・地域を走る路線バスやタクシー車両の展示のほか、路線バスの乗り方や、ICカードの使い方、バスの死角等を紹介。
- ・対象のバス路線に乗ってイベントに来訪した参加者を対象にプレゼントを配布。

実施
主体

館山市・南房総市、交通事業者

実施
工程具体的な取組
住民意識の醸成に資する事業展開

R8

R9

R10

R11

R12

